

早明浦ダム再生事業環境モニタリング委員会 第２回委員会

早明浦ダム再生事業の概要と進捗状況

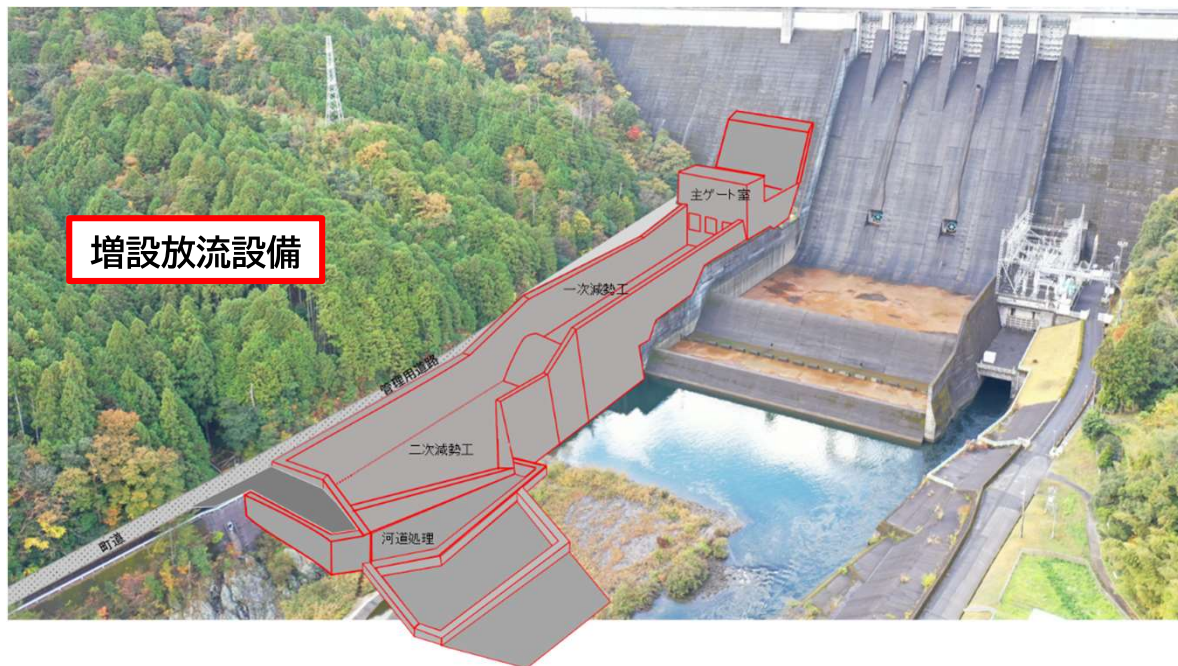
1. 事業概要
2. 事業目的
3. 早明浦ダム再生事業のイメージ
(容量配分図・増設放流設備の必要性)
4. 先行事例
5. 早明浦ダム再生事業工程表
6. 進捗状況
7. 令和５年度の工事实施内容

令和５年８月２４日

独立行政法人水資源機構
池田総合管理所
早明浦ダム再生事業推進室

1. 事業概要

1



放流設備の増設イメージ

○水系河川名

吉野川水系吉野川

○場 所

右岸:高知県 土佐郡 土佐町

左岸:高知県 長岡郡 本山町

○目 的

既設:洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の供給、水道用水の供給、工業用水の供給、発電

再生:治水機能を向上させ、吉野川の洪水による被害の軽減を図る

○諸 元

既設:堤高 106m、総貯水容量 3億1,600万 m^3

再生:放流設備の増設、容量振替

○工 期 平成30年度～令和10年度

○総事業費 約 400 億円

＜吉野川における治水事業の目標＞

①達成すべき政策目標

- 吉野川の治水安全度の向上

②具体的な達成目標(吉野川水系河川整備計画)

- 戦後最大流量を記録し、甚大な浸水被害を発生させた、平成16年10月の台風23号と同規模の洪水に対し、吉野川の氾濫による浸水被害を防止する。

＜早明浦ダム再生事業の目的(事業実施計画)＞

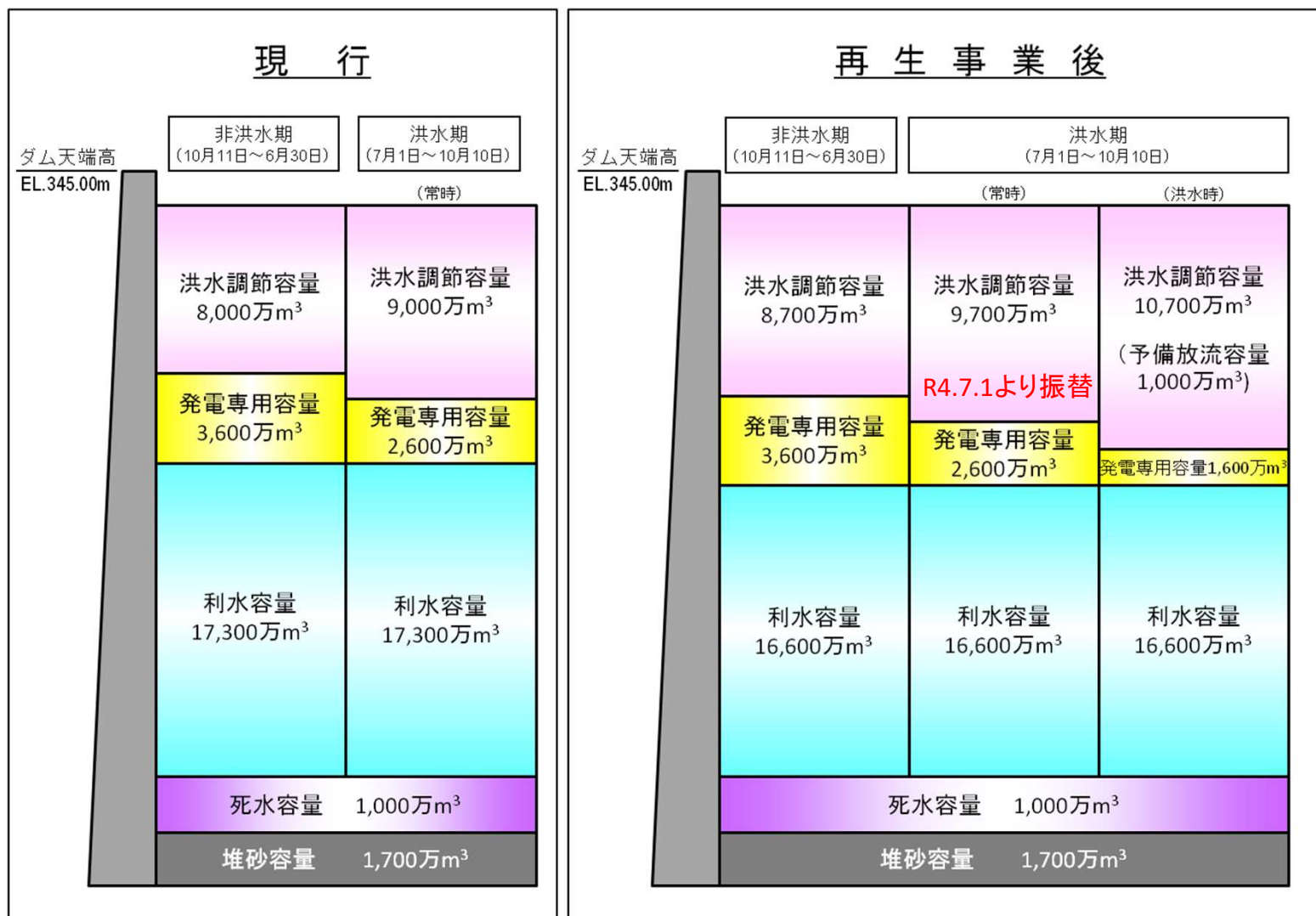
③事業の目的

- 水の安定的な供給を確保することを目的として、「吉野川水系における水資源開発基本計画」に基づき整備した特定施設である早明浦ダムについて、治水機能を向上させる改築事業を行い、吉野川の洪水による被害の軽減を図る。

3. 早明浦ダム再生事業のイメージ（容量配分図）

3

- 現状の利水安全度を確保しつつ、利水容量から洪水調節容量に振り替えることで容量を確保するとともに、予備放流方式の導入により、洪水調節容量を現行の9,000万 m^3 から10,700万 m^3 に増大させる。

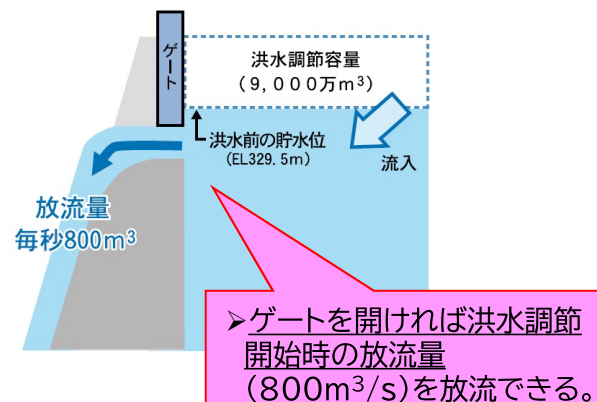


3. 早明浦ダム再生事業のイメージ（増設放流設備の必要性）

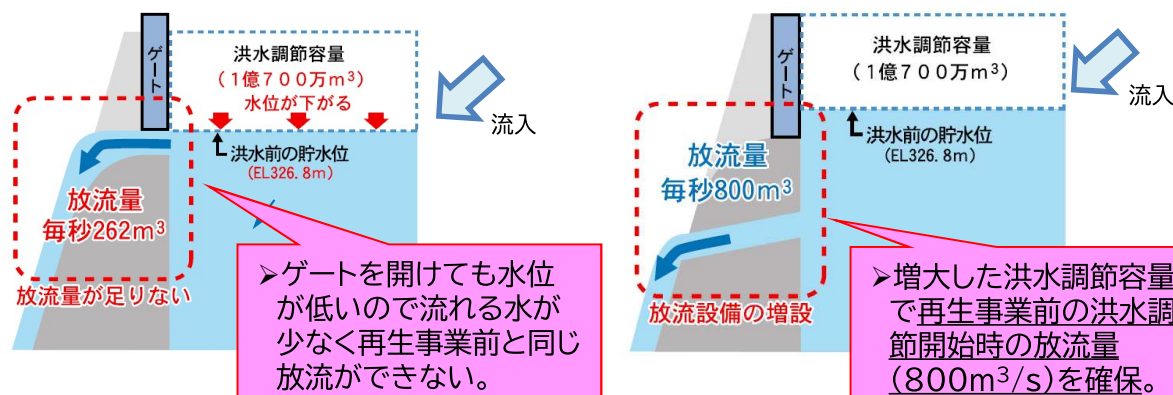
4

- 予備放流を行い、増大させた洪水調節容量を活用するためには、低い位置に新たに放流管を設置する必要がある。

再生事業前(現状)の放流イメージ

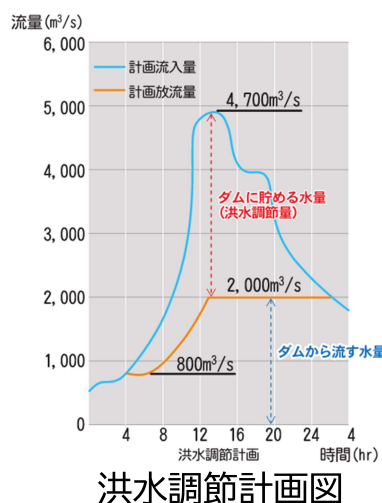


再生後の放流イメージ



増大した洪水調節容量を活用するため、予備放流を行い、洪水になるまでの間、ダムに水を貯めないようにするため、低い貯水位でも放流できる設備が必要。

- ◆ 急激に河川水位が上がらないよう徐々に放流量を上昇させるとともに、関係機関に事前の情報提供を行い、早明浦ダムから池田ダム迄の区間でのサイレンと河川巡視をすることで河川利用者に対する注意喚起を行う。



巡視による注意喚起

警報車等により巡視、河川利用者への注意喚起



サイレンによる注意喚起

警報局舎のサイレン吹鳴

4. 先行事例

5

- 鶴田ダム(鹿児島県)では先行して工事が実施されており、ダムの安全性を確保した上での施工は可能。
- ダム本体の施工であり、環境面での影響も少なく、技術的な課題も少ない。



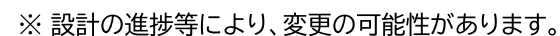
事業前の鶴田ダム(鹿児島県)



ダムの長さは450m、高さは117.5mあり、貯水量は1億2,300万m³



6

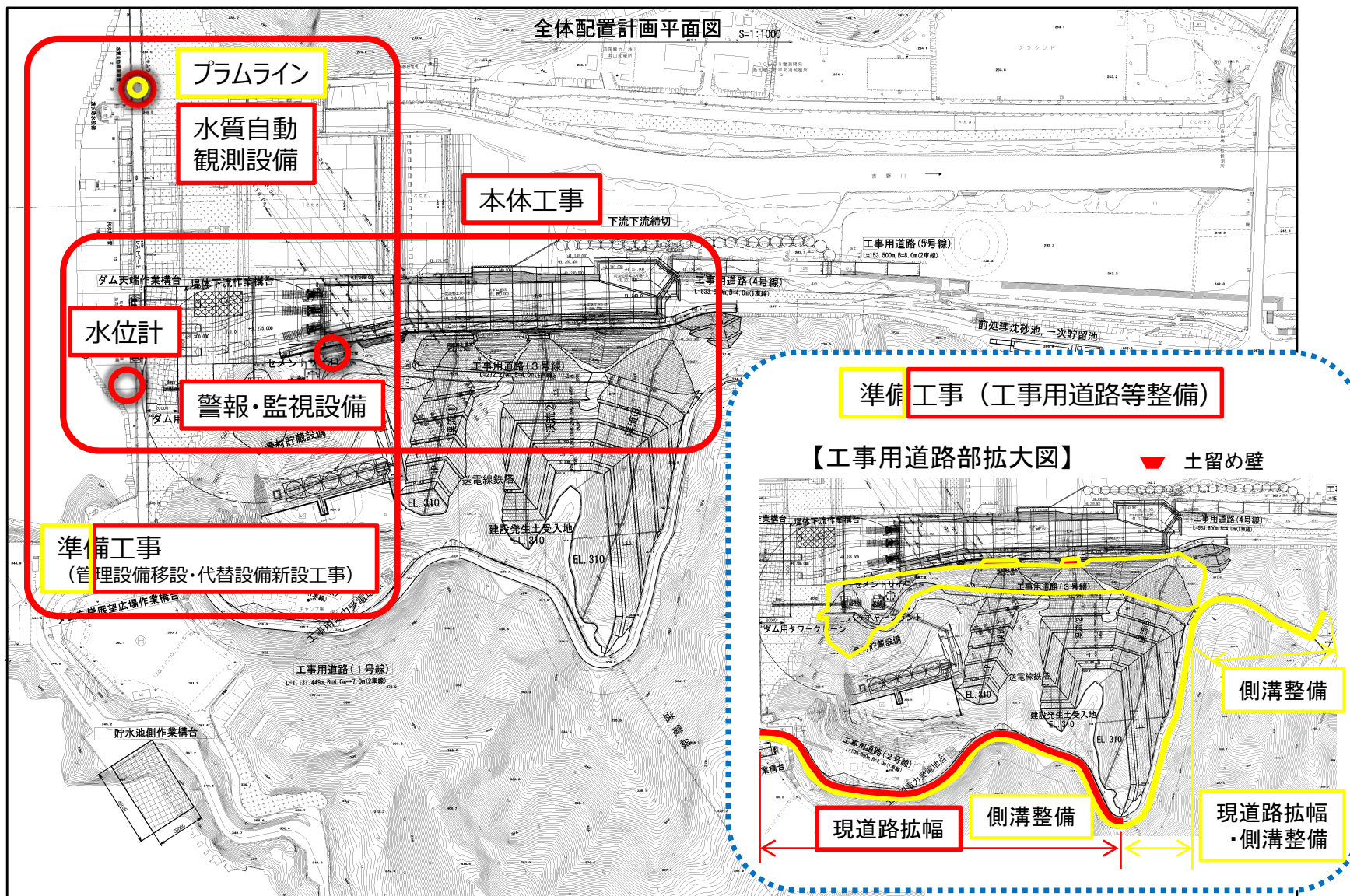


6. 進捗状況

R4年度迄

R5年度以降

7



7. 令和5年度の工事実施内容

8

➤ 令和5年度の工事実施内容

＜本体工事、本体準備工事等＞

- ① 増設洪水吐き
作業構台設置、基礎掘削、工事用道路新設、下流仮締切ヤード造成、
堤体下流面チッピング、放流管階段基礎コンクリート打設
- ② 増設放流設備
現地作業なし(工場製作のみ)
- ③ 上流仮締切
鋼製台座アンカー据付※水中作業
- ④ 本体工事の準備工事
工事用道路、建設発生土受入地整備、管理設備移設
- ⑤ 水位計設置
堤体上流側水位計設置

本体工事

